

グループ討議① テーマ：学力・GIGA スクール構想とメディアとのより良い付き合い方

会場：大研修室 参加者：9名

講師：鳥取県教育委員会事務局 DX推進課係長 濱家 雄氏
小中学校課学びの改革推進室指導主事 三村直樹氏
社会教育課社会教育主事 足羽智史氏

講師① 三村直樹氏

○GIGA スクールで求められていること

- ・チャット GPT が作成したあいさつ文の紹介。内閣府による Society5.0 を紹介する動画の視聴・・・ Society5.0 を未来社会と表現
- ・子どもを取り巻く環境の変化。価値観の変容。子どもたちにとってはどんな今なのか。モノだけでは幸せにできない社会。子どもの将来の夢の1位が会社員、2位が YouTuber AI に奪われるであろう仕事。学習指導要領の中でも「将来の予測が困難な時代」

◎そんな中子どもたちはどんな力をつければよいのか。鳥取県が推進していること・・・知識技能を習得するだけでなく活用する力や、考えや理由の根拠を言語化する力

講師② 濱家雄氏

- ・近所のパン屋の会計の様子・・・デジタル自動会計
- ・料理のレシピどうしてる？・・・ネットで検索
- ・自ら学びとる・個別最適・共同的な学び

○子どもたちが実際に使っている端末を操作してみよう（Google クラスルームを使用）

1、鳥取県の特産品を付箋に書いて貼り付けよう（Google ジャムボードを使用）

→集計、分類作業が短時間で可能。

2、私のイチオシの紹介（地元の魅力について）

→他者参照・・・自分だけではできなくても、他の人の考えや作品を参考に自分の案を構築する。情報やアイデアの応用。

講師③ 足羽智史氏

○子どもたちがインターネットとよりよく付き合っていくために～保護者の皆さんに知ってほしいこと～

- ・ジェミニで作ったアートの紹介。デジタル社会の弊害例（タッチパッドで字を覚えさせたので、鉛筆を使用した書き方が悪く筆圧が弱い）

・Google フォームでアンケート体験。「学生のネット使用時間は？」

・インターネット利用状況、スマホ所持率等。インターネットを1日三時間したとすると

→ $365 \times 3 = 1095$ 時間 ÷ 学校の授業時間（小1～3年 980 時間、小4以上 1015 時間）

・デジタルの弊害が進行すると

視力、筋力の低下。

家に帰っても社会との関係が切れない→いじめ、トラブルなどの発生。

生活リズムの乱れ→体調不良、自己をコントロールする力、学力の低下。

約束を守れなくなったり、課金などから親子関係の悪化

・低年齢時から親子でルール作りが必要

→「ルール作りの五原則」

- 1、家族の約束を明確にする
- 2、使わない時間と場所を決める
- 3、ペアレントコントロールの設定
- 4、一緒に遊ぶ（親も子の遊びを知る）
- 5、子どもがリアルな体験ができる機会を作る

○最後に

「デジタル技術は指先一つで自分や他人の人生を変えてしまう」

→今しようとしている行為は自分や他人を幸せにするものか？

○質疑応答

デジタルの良いところは？→個人にあった学び、ネットを利用した繋がり学び

子どもがタブレットを持ち帰ったら親も声掛けをしてあげて

グループ討議② テーマ：部活動について

会 場：中研修室 参加者：11名

講 師：鳥取県教育委員会事務局体育保健課 指導主事 戸井有希氏

1. 部活動の地域移行について（説明）
2. 自己紹介（所属地区、役職、部活動の知っている内容等）
3. グループ意見交換

グループ①

- ・課題が多い
指導者問題、教員の働き方改革、お金の問題
- ・部活動指導員と外部指導者の違い
顧問不在時のケガなど
- ・中学校教育的な指導
部活動の中で教員から学生が部活の中で学ぶものがある。
- ・持続可能な指導者が必要

グループ②

- ・学校の大きさや地域の問題によって違いがある。
- ・学校でチームが作れない学校は、平日合同練習を行うにしても距離があり難しい。
移動や練習会場でのお金の問題もある。今までは無料であったものが、支払いが発生するため
- ・平日は教員が指導するが、土曜日は外部指導者が指導している。実力主義なので、土曜日に練習に出ていない選手も試合に出ることができている。
土曜日にダンスを習ったりしている。ほかの運動ができている。
団体競技によっては、教員と外部指導者との意見の違いが出たときは子どもが困るのではないかと？
- ・米子では人材バンクに27名登録している。卓球や野球、吹奏楽が多い。
- ・指導者の量の確保だけでなく質が大切
暴言や暴力がある場合がある。研修などを受け、指導ができる資格などを所得してほしい。

グループ③

- ・地域移行について生徒の人数や問題が違う
- ・場所や費用の問題があるが、子どもたちはどう思っているかが大切
強いチームに行きたい？ 仲間と楽しく運動をしたい？
- ・新しい種目などを教えることも大切。eスポーツなど、新しい種目を紹介できる場の提供も必要

4. 共有

5. 質疑応答

6. アンケート

〈まとめ〉

地域や学校、競技によって違いがある。

子どもたちが望む活動をどうやったらできるのか考える必要がある。

活動をするために子どもが何をしたいのか？どう進めるのかが課題。

子どもだけでなく親のそれぞれの経験や考えを考慮する必要がある。

競技によって、市町の大会は参加可能だが、県大会は出られない等問題がある。

将来の子どもたちのために検討をするのは大切だが、今の子どもたちに不利益が出ないように迅速にルール変更や規約改正が必要。

グループ討議③ テーマ：不登校の子どもの理解と支援のあり方

会場：小研修室1 参加者：11名

講師：鳥取県教育委員会事務局 いじめ・不登校総合対策センター次長 澤 勝也 氏
指導主事 村口 智徳 氏

1 鳥取県の不登校の現状について

不登校は10年連続で増えている。R5も増えていると思われる。

年間100人ずつくらい増えていて（小学校）、鳥取県は全国的に見ても高い。

- ・不登校になる前兆

誰でも不登校になる。どんな変化があるか？

→朝起きるとおなかが痛くなる、笑顔が少なくなる、会話が減る、食欲が急に増える・減る

- ・欠席日数が30日続くと長欠となる。
- ・長欠の子どもたちがいて、その中の子が不登校となる。
- ・不登校と言われているけど、子どもたちは休みながらでも学校に行き過ぎて過ごす子が増えている。
→何とか学校に行こうとしている。
- ・不登校児童の生活は1/3がフリースクールや相談機関に行っている。
- ・3%は自分の部屋にこもって過ごしている。

○子どもが学校に来れない要因3つ

【小学校】◎学校に係る状況（いじめ、友人関係、学業）

- ・家庭に係る状況（親子の関わり）
- ・本人に係る状況（無気力、不安、生活リズムの乱れ、非行）

近年、ここが高くなっている。

【中学校】・学校に係る状況（いじめ、友人関係）

- ・家庭に係る状況（親子の関わり）
- ◎本人に係る状況（無気力、不安、生活リズムの乱れ、非行）

ここが大きい。

※子どもの生活部分に注視！！

不登校のきっかけ要因を保護者と学校が、何が原因かしっかり追究する

2 鳥取県 不登校支援の取組の在り方

※R2.8月 不登校支援の取組の在り方の冊子があるのでぜひ参考にしてほしい

○不登校に係る取組の視点

- ・安心・安全な魅力ある学校づくり
- ・早期に児童生徒を理解
- ・社会的に自立する事を目指す
- ・誰にでも起こること、不登校というだけで問題行動ではない。

県、市町村でいろいろな支援事業があるので活用してほしい

◎学校の役割

- ・自己存在感を与える
- ・共感的な人間関係を育成する
- ・自己決定の場を与える

◎家庭の支援

- ・すべての保護者が安心して子育て、家庭教育を行う事
- ・課題意識を共有して一緒に取り組む

学校と保護者が協力して支えていくことが大事（子どもは見守ってくれることで安心する）

- ・長欠になっていると、数字で全て不登校とひとくくりになってしまう。
- ・家庭では、親子の係わりが大きいので親が子への愛情はどうか？
- ・親も子の変化をしっかり見てあげる。

○子どもたちはどこを見ているか？

- ・子どもの「心」の根っこは 認められたい気持ち、愛されたい気持ち
- ・いい子だから問題がない子ではない！

「子どもの心の法則」

- ・子どもは「つらさ・悲しみ」を心の中に沈める→怒られた時の恐怖心から
- ・子どもの変化が出たときは、いっぱいになった証拠（一人で頑張ったから）
- ・子どもが「自分はダメだ」ということから守ってあげる。→親の役割“見守る子育て”
- ・子どもは「安心」「安全」を感じれば、自分から踏み出す。
- ・ありのままの自分でいいと思う感情が大事

○親の気持ち

- ・親のストレスに学校は気付いていない
- ・親のストレスには、子の要因・親の要因のどちらもかかわっている。

親が我が子を受容していく4つの要素

- ・我が子の理解
- ・家族の受容 ⇒**子どもに対する受容**
- ・社会の受容
- ・親自身の人生の受容